

2019 年度 キャリア形成入門
「スタッフ・ポートフォリオ(SP)とメンタリングを用いて、可能性を引き出し活かす」
開催報告

日 時 : 2020(令和2)年2月14日(金)10:00~18:30(情報交換会 17:00~18:30)
会 場 : キャンパスポート大阪 ルームB他(大阪市北区梅田1-2-2-400 大阪駅前第2ビル4階西側)
企画コーディネーター: 清水 栄子氏(追手門学院大学 基盤教育機構/教育開発センター 准教授)※
講 師 : (登壇順)岡本 千代恵氏(関西福祉科学大学 運営企画室)※
小林 諒太郎氏(大阪経済大学 総務部人事課)※
城戸 直也氏(追手門学院大学 人事課 主任)※
宮原 秀明氏(大阪学院大学 庶務課兼社会連携室 課長)※※
司会進行: 遠藤 哲哉氏(大阪市立大学 法人事務局法人管理部 市大人事担当課長代理)※
参加者数: 8大学13名
内容詳細: 大学コンソーシアム大阪 HP 掲載の「シラバス」参照
実施結果: 同上 HP 掲載の「PDF/参加者アンケート」参照
企画・運営: 大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員会
(注)※推進委員、※※推進副委員長

昨年まで行われていた SD 講師養成のための研修の内容を見直し、より身近なテーマである大学職員としてのより良いキャリア形成に役立つ知識を得、能動的に自らの(または他者の)キャリアにアプローチできるようになることを目的として実施。職業人一般のキャリアの在り方について学ぶとともに、大学職員という職種に固有のキャリア形成上の在り方についても共に考える研修である。

また、「知識・能力・経験・志向の棚卸し」に有用な「スタッフ・ポートフォリオ(略称「SP」)や、SP の内容をさらに深化・発展させるための「メンタリング」について学ぶ。

冒頭に司会の遠藤氏より、推進委員長である浅田 晋太郎氏(学校法人 大阪女学院 理事)の紹介、また、浅田氏より開会挨拶と本研修の趣旨説明があった。

浅田氏からは「本研修は大学の垣根を超えて集まった熱意のある推進委員が、お互いに協力し合って企画・運営するものであり、大学職員としてキャリアのステップアップに繋がる研修になると確信している」との言葉があった。

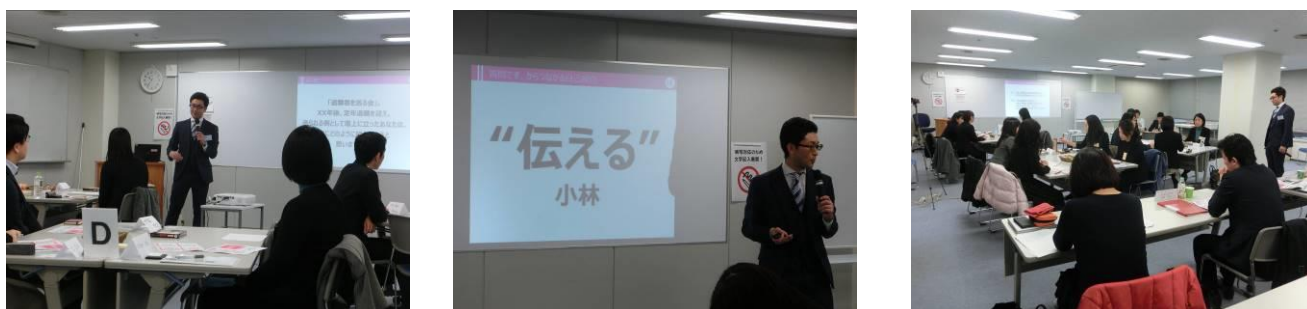
続いて、本研修の企画コーディネーターをされた清水氏を筆頭に、講師全員の挨拶と自己紹介があった。



続いて、岡本氏による数字とひらがなが書かれた特製のカードを用いたアイスブレイクが行われた。グループ内でそれぞれ自己紹介を行ったのち、大学職員として大学や大学生のことをどれだけ知っているかをクイズ形式で共有した。



次に、小林氏による「職員のキャリア形成概論」の講義が行われた。内容は「ワーカーとしてのキャリア」「大学職員としてのキャリア」の二部構成で、前半ではキャリアの定義やキャリアとの向き合い方等先行研究に基づいた考え方の紹介が、後半では大学職員という職種の特性や職員ならではのキャリア形成課題の共有等が行われた。総論として、どこで転機が訪れるか予測しにくい状況の中、キャリアの節目をしっかりとデザインしつつ、節目以外は目の前の課題に集中し、良い意味で流れに身を任せる(偶然を楽しむ)という考え(金井 壽宏氏<神戸大学>)が強調された。



昼食休憩後、午後からは城戸氏による『「スタッフ・ポートフォリオ(SP)」を理解する』(プチ SP 作成ワーク含む)をテーマにワークショップが行われた。

最初に「SP」に関する詳しい説明があり、それを踏まえてプチ SP 作成ワークが行われた。

<SP 作成ワーク1>では仕事上、仕事以外で最も充実感を得た経験、<SP 作成ワーク2>ではビジョン、夢についてそれぞれまとめ(個人ワーク)、その後のペアワークにおいて内容をお互いに共有することで、SP 作成の手法(入門編)を学んだ。



続いて、宮原氏による『『メンタリング』を理解する』(プチメンタリング実践含む)をテーマにワークショップが行われた。

メンタリングとは何か、メンターの役割、SPを活用したメンタリングの利点を説明することができるようになることを目標とした講義があり、和気藹々とした雰囲気の中、ペアワークを通してプチメンタリングを体験する場が設けられた。



最後に、小林氏による「番外グループ討議『職員としてどのようなキャリアを歩んでいくか』」をテーマに、これからどのようなキャリアを歩んでいくのか自らの考えをより明瞭にし、参加者同士の対話を通して新たな視点を獲得することを目標としたワークショップが行われた。

受講者は個人ワーク→グループシェア→グループワーク→全体シェアと段階を踏みながら、自らのキャリアを振り返り、今後のキャリア形成について考える良い機会となった。



本日の研修のまとめとして、リフレクションシートを用いてグループで本日の研修の振り返りを行った。研修終了後、受講者には「受講証明書」が配付された。

続いて情報交換会が開催され、講師や受講者間での活発なネットワーキングが行われた。



以上